



1624

宗清の松



式之巻

目録 春約の段

第一 是(これ)一回(いちど)と(と)れ(れ)一回(いちど)同(どう)家(け)求(もと)むる(る)身(み)結(むす)ぶ

ふ(ふ)友(とも)好(よし)小(こ)判(はん)を(を)し(し)る(る)山(やま)吹(ふ)の(の)瀬(せ)川(がわ)

な(な)る(る)し(し)を(を)と(と)る(る)中(なか)海(うみ)心(こころ)思(おも)ふ(ふ)乃(なり)

ひ(ひ)ん(ん)と(と)ね(ね)る(る)海(うみ)老(ら)翁(おう)の(の)記(き)





第二

新嘗節が立寄の節おの男立

つらふ人男のこを極うて肉體

はあをくらげと極うきふらん

はらうらうらあまのたをれま

第三

年より世より出家乃方便

計畧にのつて身あふまゑ

しんてあうらうら

しんてあうらうら

① 是をどうそれどう同業する男

春のふるゆめ分てまよふや

どうかんもどうも

たうらうら

はらうら

あうら

あうら

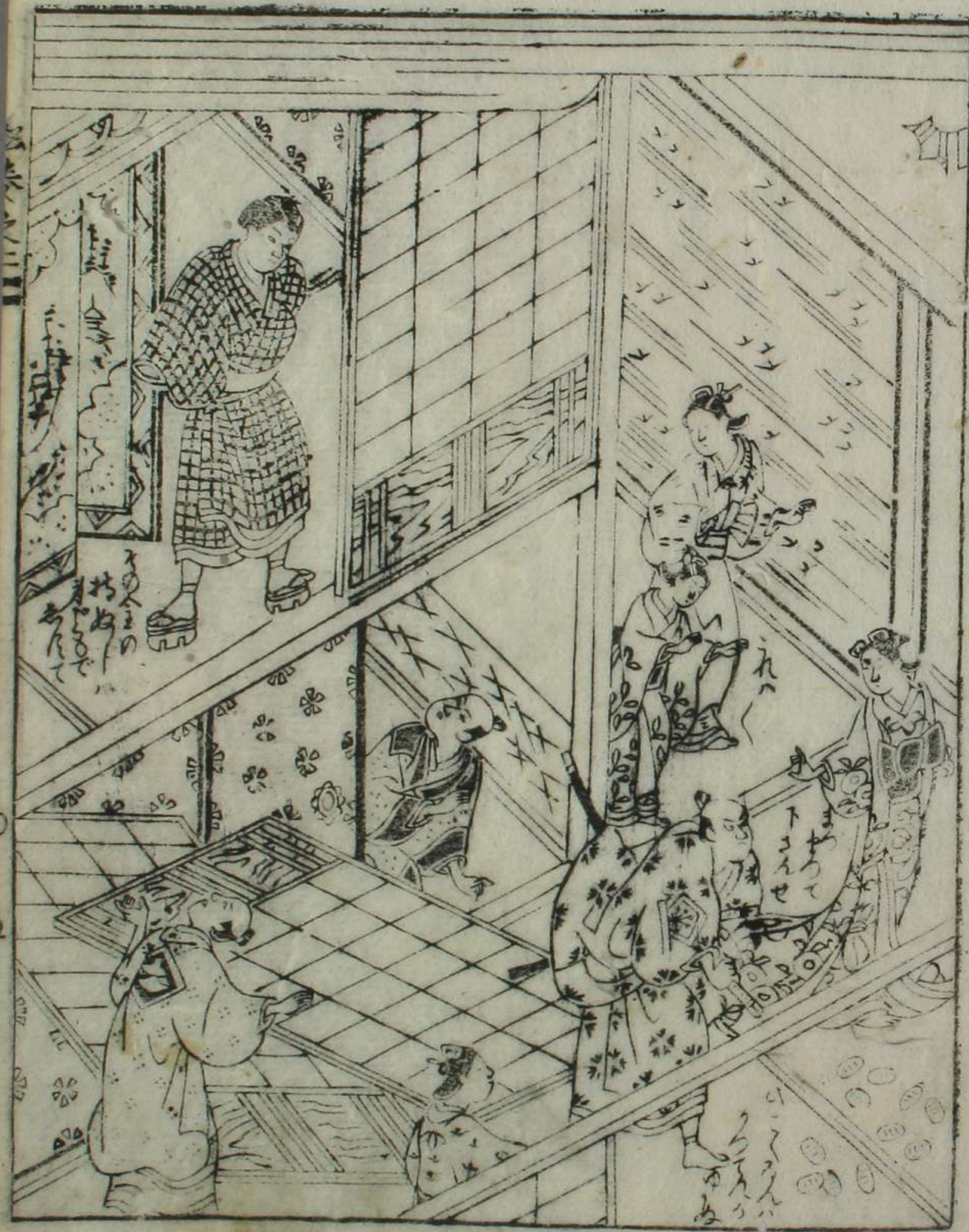
あうら

あうら



























































附 身袴乃サリりと袴の袴のりる約合と着袴子  
及あつく係分限の尾纏の作らふ大掛鯛

親仁形氣後編

近々出来

# 世間長者容氣

全五冊

氣 氣 氣 氣 氣  
氣 氣 氣 氣 氣  
氣 氣 氣 氣 氣  
氣 氣 氣 氣 氣  
氣 氣 氣 氣 氣

右之故自免書抄くくを纏互進付物一作三符  
此度らよりと云々く一由自はけりとの由外く言ふん  
り水メの筋んを教よの己と



